

「ダイビング」	単 位 数	3 単 位
	学科・学年・学級	海洋科学科 第3学年A2組

1 学習の到達目標等

学習の到達目標	ダイビングの安全な実施に関する知識と技術を習得させ、水産や海洋の各分野に活用する能力と態度を育てる。
使用教科書・副教材等	潜水士テキスト（中央労働災害防止協会）

2 評価の観点、内容及び評価方法

評価の観点及び内容		評価方法
関心・意欲・態度	ダイビングについて関心を持ち、その知識・技術の習得に主体的に取り組もうとするとともに、安全潜水について考える実践的な態度を身に付けている。	<ul style="list-style-type: none"> ・講義，実習への参加状況及び態度 ・講義の中で使用する資料の利用状況 ・ノート
思考・判断・表現	座学・実習を通して、ダイビングについて思考を深め、基礎的な知識と技術を活用して適切に判断し、その課程や結果を表現している。	<ul style="list-style-type: none"> ・定期考査 ・質疑応答 ・ノート
技 能	ダイビングに関する基礎的な技術を身に付け、プール・海洋実習において適切に活用している。	<ul style="list-style-type: none"> ・定期考査 ・ノート ・海洋実習
知 識 ・ 理 解	座学・実習を通して、ダイビングに関する基礎的な知識を身に付け、それらが水産業や海洋関連産業に果たしている役割を理解している。	<ul style="list-style-type: none"> ・定期考査 ・小テスト

3 評価

- 単位の修得認定については以下のとおりとする
- 1 学期末成績については、テストを50%、実技点（下記①～④）50%の配分で、総合的に評価する。
 - 2 学年末の評価については、1，2，3学期の成績を総合評価する。
- ①出席が年間授業時数の2/3以上あること。遅刻や早退がないこと・
 ②毎時間の授業に目標を持って意欲的に取り組むこと。（授業中の居眠りは欠課とする。）
 ③提出物（授業プリント、課題プリント、その他指示されたもの等）を期限までに自分で仕上げ提出すること。
 以上の①～③が全て認められなければ、試験の点数の善し悪しに関わらず単位の修得は認定できない。

4 学習計画及び評価方法等

学 期	学 習 内 容	月	学 習 の ね ら い	備 考（学習活動の特記事項、他教科・総合的な学習の時間・特別活動等との関連など）	考 査 範 囲
第 1 学 期	4 ダイビング機器	4	スクーバダイビング機器の名称・役割、使用法と点検・整備に必要な基本的な知識や技術を習得させる。	<ul style="list-style-type: none"> ・25mプールおよび潜水プールにおいて基本的なスキルを中心に習得させる。 	第 1 学 期 期
	5 ダイビング技術	5	スクーバダイビングに必要な器材の取り扱いと保守点検など、ダイビングに必要な基本的な知識と技術を身につけさせる。		
		6	器材のセット解除と洗い方 BCDの取り扱い レギュレーター・クリア レギュレーター・リカバリー マスク・クリア		

		7	ハンド・シグナル 器材脱着 中性浮力		末 考 査	
【課題・提出物等】 授業の中で使用したプリントおよびノートを提出する。						
【第1学期の評価方法】 定期試験50%、実技点50%（学習への参加態度を含む）						
第 2 学 期	5	ダイビング技術	9 10 11 12	スクーバダイビングに必要な器材の取り扱いと保守点検など、ダイビングに必要な基本的な知識と技術を身につけさせる。また、レスキュー法についても学習する。 1学期の復習 疲労ダイバー曳行 エア切れ 緊急スイミングアセント 中性浮力（ホバーリング） バディ・ブリージング 器材脱着 レスキュー ダイブテーブル コンパスナビゲーション	・25mプールおよび潜水プールにおいて基本的なスキルを中心に習得させる。 ・海洋実習や潜水放流と関連づけて展開する。	第 2 学 期 期 末 考 査
	【課題・提出物等】 授業の中で使用したプリントおよびノートを提出する。					
【第2学期の評価方法】 定期試験50%、実習50%（学習への参加態度を含む）						
第 3 学 期	6	ダイビングの関係法規	1	ダイビングに関連する基本的な法規の概要を理解させる。	・潜水士と関連づける。	3 学 期
	【課題・提出物等】 1 授業の中で使用したプリントおよびノートを提出する。					
【第3学期の評価方法】 定期試験50%、実習50%（学習への参加態度を含む）						
【年間の学習状況の評価方法】 原則として各学期の平均点を年間の評価とするが、欠点を取った者に対して、4観点で特筆すべき所があれば、加味し、補習等を行い、年間の評価に加える。						

確かな学力・技術を身に付けるためのアドバイス	<ul style="list-style-type: none"> 水産業や海洋関連産業等におけるダイビングの意義と沿革及び潜水による魚介類の採取や水中作業、レクリエーションダイビングの普及や安全性、漁業とのかかわり、自然環境への配慮等について常に意識しておくこと。 体調管理に気を配り、授業を休まないこと。 水中環境（特に水圧）について理解すること。
授業を受けるに当たって守ってほしい事項	<ul style="list-style-type: none"> 実習では着替えや準備を敏速に行い、時間に遅れないようにする。 体調管理に万全に期すこと。万一、体調不良の場合は事前に申し出ること。 水中での実習は危険を伴うので訓練の内容をしっかりと理解し、説明時に私語をしない。 見学の時は実習服を着用すること。

3 担当者からのメッセージ

<ul style="list-style-type: none"> ダイビングを通し、バディーシステムにもあるように協調性を身につけ、自分だけでなく周囲を見渡すことが出来るくらいの技量を身につけて欲しい。 海洋生物に興味を持ち、また海洋環境に配慮できる力を身につけて欲しい。 実習時は機敏な行動を取り、短時間で集中して技術を身につけるよう努力して欲しい。
